

# 天井棧敷の人々 (1945)

LES ENFANTS DU PARADIS  
CHILDREN OF PARADISE

**メディア**

映画

**ジャンル**

ドラマ 口マンス

**製作国**

フランス

**色彩**

B&W

**時間**

195分

**初公開日**

1952/02/20

**公開情報**

東和=東宝

**映倫**

G

1981/02 [フランス映画社]

**リバイバル**

2000/12/26 [ザジフィルムズ]

2005/01/15 [ザジフィルムズ]

2020/10/23 [ザジフィルムズ] (4K修復版)

## 【解説】

フランス映画史に残る古典として知らぬ者のない名作だ。時の摩耗にも耐えて、常にフランス映画の顔として君臨してきた作品。プレヴェール=カルネのコンビの数ある“詩的リアリズム”作品の中でも、人間絵巻としてのボリューム感、横溢する口マンチズム、純化された19世紀の風俗再現と、類を見ない、フランス人にとっての永遠の一作なのだ。1840年代パリのタンブル大通り。パントマイム役者バティスト（バロー）は、裸に近い踊りで人気のガランス（アルレッティ）に恋をする。犯罪詩人ラスネールや俳優ルメートルも彼女に夢中だ。一方、バティストの属する一座の座長の娘ナタリーはバティストを愛していた。ラスネールと悶着のあったガランスもその一座に加わるが、彼女の前には新たな崇拜者モントレー伯が現れる……、とここまでが第一部。第二部は、5年後のバティストはナタリーと、ガランスは伯爵と結婚。前者には一子もあった。が、ガランスを忘れられぬバティストはルメートルの手引きで彼女と再会。一方、劇場で伯爵の侮辱を受けたラスネールはトルコ風呂で彼を襲撃し殺す。一夜を明かしたバティストとガランスの前には子連れのナタリーの姿が……。ガランスは身を引く覚悟を決め、カーニバルの雑踏の中に消えていく。後を追うバティストの彼女の名を呼ぶ声、この壮大なラストシーンと、純粹すぎるほどに熱いバローの名演、アルレッティの妖艶さは、まさに古典たるに相応しい風格を持って、映画の未来にも永遠に記憶されるに違いない。

## 【クレジット】

<b>監督</b>	マルセル・カルネ	Marcel Carné
<b>製作</b>	フレッド・オラン	Fred Orlan
<b>脚本</b>	ジャック・プレヴェール	Jacques Prévert
<b>撮影</b>	ロジェ・ユベール	Roger Hubert
	マルク・フォサール	Marc Fossard
<b>音楽</b>	モーリス・ティリエ	Maurice Thiriet
	ジョセフ・コズマ	Joseph Kosma
<b>出演</b>	アルレッティ	Arletty
	ジャン=ルイ・バロー	Jean-Louis Barrault
	マリア・カザレス	Maria Casares
	マルセル・エラン	Marcel Herrand
	ピエール・ブラッスール	Pierre Brasseur

ルイ・サルー	Louis Salou
ジャヌ・マルカン	Jane Marken
シモーヌ・シニョレ	Simone Signoret
ジャン・カルメ	Jean Carmet